



聖体礼儀

名古屋ハリストス正教会

2015

聖体礼儀

輔祭 君よ、祝讃せよ、

司祷者 父と子と聖神の国は崇め讃めらる、今も何時も世世に、

(詠) アミン

[大連祷]

輔祭 我等安和にして主に祷らん、

(詠) 主 憐めよ

輔祭 上より降る安和と我等が霊の救いの為に主に祷らん、

輔祭 全世界の安和神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の為に主に祷らん、

輔祭 此の聖堂、及び信と慎みと神を畏る心とを以て、此に来る者の為に主に祷らん、

輔祭 教会を司る我等の主教(某)、司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の為に主に
祷らん、

輔祭 我が国の天皇及び国を司る者の為に主に祷らん、

輔祭 此の都邑と凡の都邑と地方、及び信を以て、此の中に居る者の為に主に祷らん、

輔祭 気候順和、五穀豊饒、天下泰平の為に主に祷らん、

輔祭 航海する者、旅行する者、病を患うる者、^{かんなん}艱難に遭う者、^{とりこ}虜となりし者、及び彼等の救いの為に主に祷ら
ん、

輔祭 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るが為に主に祷らん、

輔祭 神や、^{なんじ}爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ、

輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光荣の女宰・^{しょうしんじょ}生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、
我等己の身及び互に各の身を以て、并に^{ことごと}悉くの我等の^{いのち}生命を以て、ハリストス神に委託せん、

(詠) 主 爾に

司祭 (高声) 蓋凡そ光荣尊貴伏拝は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、

(詠) 「アミン」

大連祷



ルーマニア調

1 2,7

ア ミン
A min

主 あわれめよ
Doamne mi lu e - ste

主 あわれめよ
Doamne mi lu e - ste

3,8 4,9 5,8

主 あわれめよ
Doamne mi lu e - ste

主 あわれめよ
Doamne mi lu e - ste

主 あわれめよ
Doamne mi lu e - ste

6,9

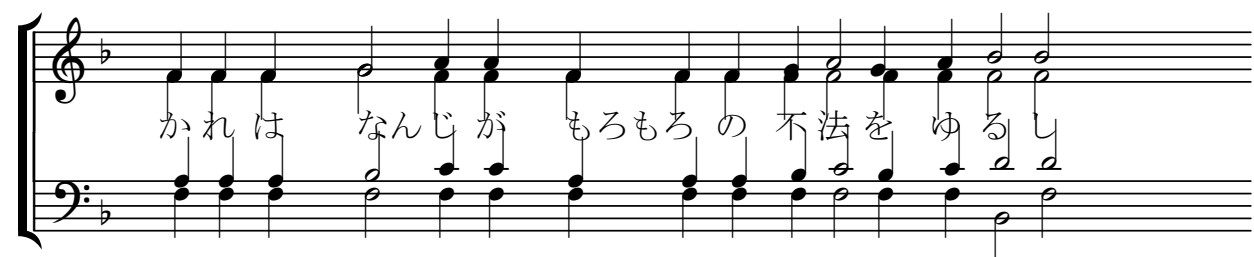
主 あわれめよ
Doamne mi lu e - ste

主 なんじに
Tie doam - - ne

ア ミン

【第1アンティフォン】第102 聖詠 トロパリ1調(Russian Greek chant)のメロディによる arr.Nina Harada

<主宰の祭日は変わる>



せいしん 聖神 に 帰す いまも いつも 世世に アミン

我が たましいや、主を 讃めあげよ、我が 中心や、

その聖なる名を ほ 讃めあげよ、主や爾は 崇め讃めらる

【小連祷】

輔祭 我等復又安和にして主に祷らん、

(詠) 主憐めよ

輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救ひ憐み護れよ、

輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

(詠) 主爾に

司祭 蓋爾は善にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、

(詠) 「アミン」

主 あわれめよ 主 あわれめよ 主なんじに アミン

こゝろ えい 光 栄 は 父 と 子 と せいしん 聖神 に 帰 す

我が たましい 霊 や、 主を ほ め 讃 め あげ よ、 我 生 け る う ち

主を ほ め 讃 め あげ よ、 我 いのち 生命 ある うち 我 が か み に う た わ ん

ぼく はく よ な か れ 救 う あ た わ ざ る 人 の こ に 依 る な か れ

い き た 彼 息 絶 え れ ば 止 に か え り お よ そ

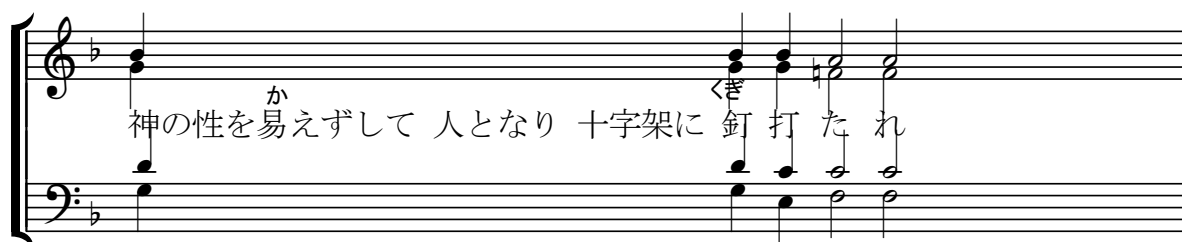
か れ が は か る と こ ろ は そ の 日 に 消 ゆ

主 は 永 遠 に 五 と な ら ん シ オ ン や、 なん じ か み は



〔神の独生の子〕

トロパリ 6 調のメロディによる





【小連祷】

輔祭 我等復又安和にして主に俵らん、

(詠) 主憐めよ

輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救ひ憐み護れよ、

(詠) 主憐めよ

輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

(詠) 主爾に

司祭 蓋國と権能と光榮は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、(詠)「アミン」





泣く者は ^{さいわい} 福 なり、／彼等は ^{なぐさめ} 慰 を 得んとすればなり。

溫柔なる者は ^{さいわい} 福 なり、／彼等は 地を嗣^つがんとすればなり。

義に飢え渴く者は ^{さいわい} 福 なり、／彼等は ^あ 飽くを得んとすればなり。

矜恤^{あわれみ}ある者は ^{さいわい} 福 なり、／彼等は ^{あわれみ} 矜恤を得んとすればなり。

心の清き者は ^{さいわい} 福 なり、／彼等は 神を見んとすればなり。

和平を行う者は ^{さいわい} 福 なり、／彼等は 神の子と名づけられんとすればなり。

義の為に ^{きんちく} 窘^{さいわい} 逐せらるる者は 福 なり、／天国は 彼等の^{もの} 有なればなり。

人我が為に ^{なんじ} 爾等を ^{のし} 訴り ^{きんちく} 窘^{なんじ} 逐し、／爾等の事を ^{いつわ} 譎りて ^{もろもろ} 諸の ^{ことば} 悪しき言を言は
ん時は、^{なんじ} 爾等 ^{さいわい} 福 なり。



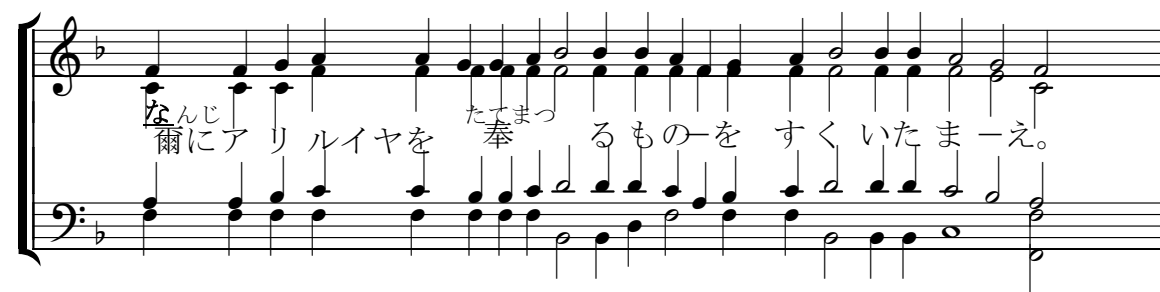
[小聖入]

輔祭 主に祈らん、

輔祭 (福音経を左肩におき、右手にオラリをかかげて) 尊貴なる主宰や、聖入に祝福せよ。

司祭 (黙唱ののち) 爾の聖者の入るは常に崇め讃めらる、今も何時も世世にアミン。

輔祭 (福音経を掲げ、それで十字を描き) 睿智、謹みて立て。



※祭日では「死より復活せし主や」が「生神女の祈祷によって」「聖人に厳かに現るる主や」などに変わる。

主日トロパリ

arr. Ekaterina Kato

トロパリ 一調

きゆう せい しゅ やイウデヤの人はかを封 じて へいぞつ いさぎよ り まち
救世主 イウデヤの人はかを封じて 兵卒汝の潔き身を守るとき なんじは

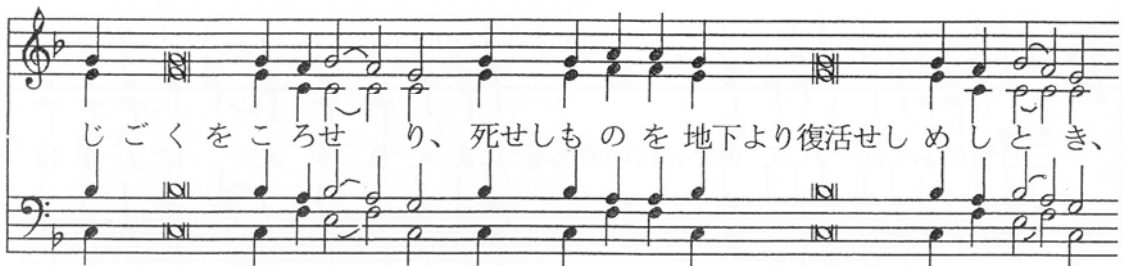
みつめ 三日目にふくか つして せかいにいのちを たま えり ゆ え に さん 軍は
三日目にふくか つして 世かいにいのちを たま えり ゆ え に 天軍は

なんじ いのち ほどこ よ 父 子 や 光 栄 は 汝 の 国 に 帰 し 光 えい は
汝、命を施すの主に呼んで言う 父子や光栄は汝の国に帰し光栄は

なんじの くにに帰す ひとり人を慈しむの主 や 光 栄 は なんじの 慮りに帰す
なんじの くにに帰す ひとり人を慈しむの主 や 光栄はなんじの慮りに帰す

光栄は父と子と聖神に帰す「聖堂のトロパリ」
今も何時も世々にアミン「ニコライのトロパリ」

トロパリ 二調



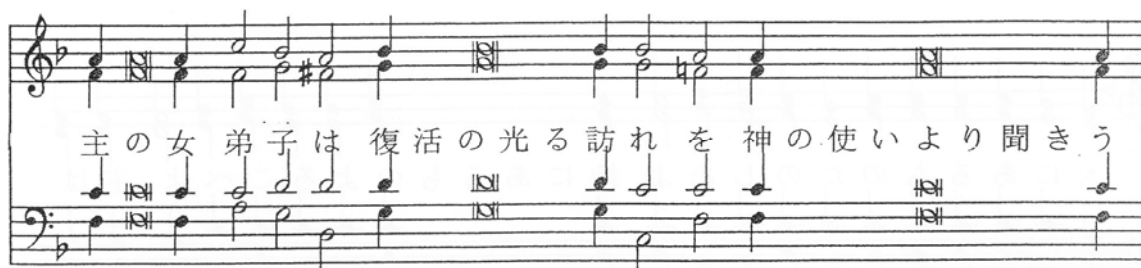
光栄は父と子と聖神に帰す「聖堂のトロパリ」
 今も何時も世々にアミン「ニコライのトロパリ」

トロパリ 三調



光栄は父と子と聖神に帰す「聖堂のトロパリ」
 今も何時も世々にアミン「ニコライのトロパリ」

トロパリ 四調



主の女弟子は復活の光る訪れを神の使いより聞きう



けて、元祖よりの定罪をふるいすて、使徒に誇りて言



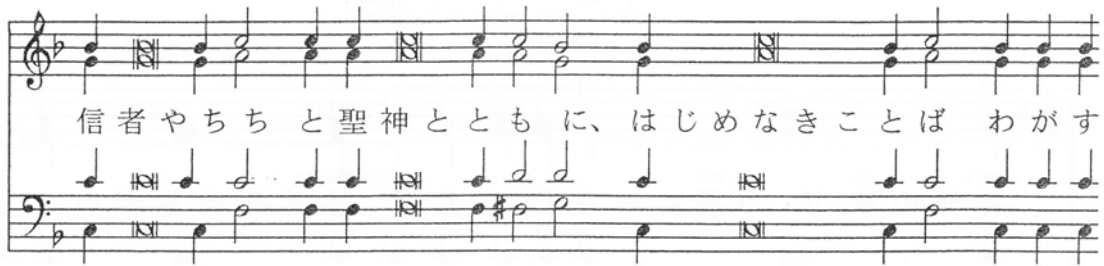
えり、死は滅ぼされ^ス神は復か^ッつして、世界に大い



なる憐れみをたまえり

光栄は父と子と聖神に帰す「聖堂のトロパリ」
 今も何時も世々にアミン「ニコライのトロパリ」

トロパリ 五調



信者やちちと聖神とともに、はじめなきことばわがす



くいのために、童貞女より生まれしものをほめ歌うて



おがむべし、かれあまゐりてその身にて十字架にのぼり



死をしのびその光栄のふくかつにて、死せしものを復活



せしめたまえばなり

光栄は父と子と聖神に帰す「聖堂のトロパリ」
 今も何時も世々にアミン「ニコライのトロパリ」

トロパリ 六調

しんし ぐん はか ばんべい
神使の軍、汝の墓にあらわれしに、番兵死せる者のごと

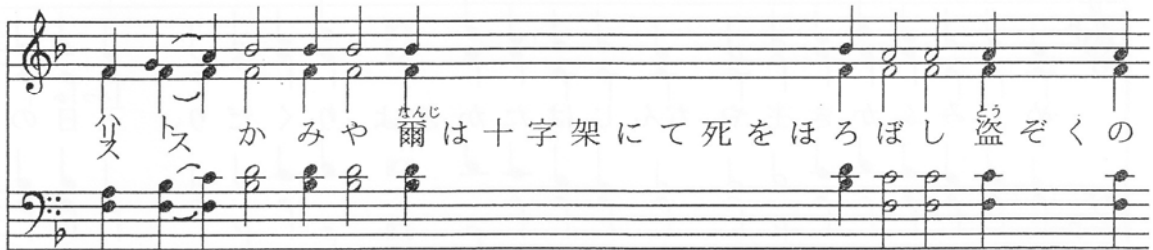
し、マリア墓に立ちて汝の潔きからだをたずねり、なんじは

じごく じごく いのち たま
地獄にいざなわれずして地獄をとりごにし、命を賜うて

しよじよ き
処女に会いたまえり、死より復活せし主や、光栄はなんじに帰す。

光栄は父と子と聖神に帰す「聖堂のトロパリ」
今も何時も世々にアミン「ニコライのトロパリ」

トロパリ 七調



光栄は父と子と聖神に帰す「聖堂のトロパリ」
 今も何時も世々にアミン「ニコライのトロパリ」

トロパリ 八調



光栄は父と子と聖神に帰す「聖堂のトロパリ」
 今も何時も世々にアミン「ニコライのトロパリ」

♪ 光栄は父と子と聖神に帰す

神現聖堂のトロパリ 1 調

主よ、なんじが イオルダンに 洗を受くるとき

聖三者の 敬拝は ^{けいはい} 顕れ ^{あらわ} たり けだし 父の ^{ちち} こえ

爾を証して 至愛の子と名づけ 聖神も 鳩の形に ^{あらわ} 顕れて

^{ことば} 言の確かなるを示せり。あらわれて 世界を照らしし

ハリストス かみよ 光栄は なんじに 帰す。

♪今も何時も世々にアミン

【亜使徒聖ニコライのトロパリ】

使 徒 と ひ と し く 同 座 な る も の

忠 実 に し て 神 智 な り ハ リ ス ト ス の え き 者 聖 な る し に え ら は め た る ふ え

ハ リ ス ト ス の 愛 に み ち た る う つ め わ が 国 の 光 照 者

亜 使 徒 主 教 聖 ニ コ ラ イ よ な ん じ の 牧 群 の た め

お よ び 全 世 界 の た め に い の ち を 保 ち 聖 三 者 に 祈 り た ま え

司祭 蓋我が神や爾は聖なり、我等光栄を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も、

輔祭 主や敬虔なる者を救い、及び我等に聴き給へ。

(詠) 主や敬虔なる者を救い、及び我等に聴き給へ。(輔祭がいるときだけ)



主よ、敬虔なる者を救い、及び我等に 聴き な ま え

輔祭 世世に

(詠) アミン

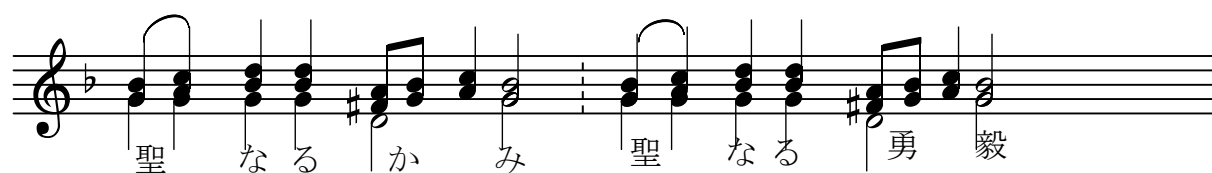
[聖なる神]



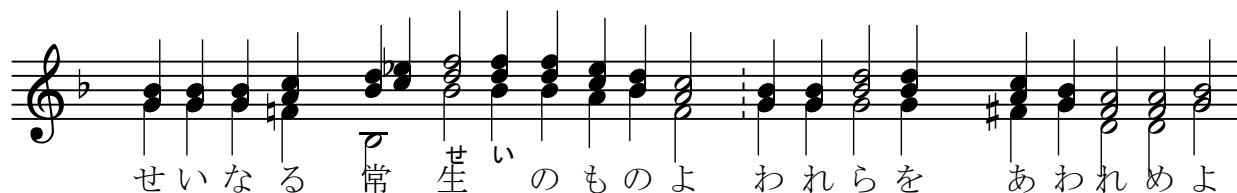
聖 なるかみ 聖 なる勇毅 聖 なる 常生のものよ われらを あわれめよ



聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を隣 れめよ



聖 なる か み 聖 なる 勇 毅



せい なる 常 生 の もの よ われらを あわれめよ

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も 世世に アミン

This system contains the first line of the musical score. It features a grand staff with a treble and bass clef, both with a key signature of one flat (B-flat). The melody is written in the treble clef, and the bass line is in the bass clef. The lyrics are written below the staff.

聖なる常生の者よ、我等を 憐れめよ

This system contains the second line of the musical score. It continues the melody and bass line from the first system. The lyrics are written below the staff.

スヴィヤ ティ ボー ジエ スヴィヤ ティ クレー プキー

This system contains the third line of the musical score. It continues the melody and bass line from the second system. The lyrics are written below the staff.

スヴィヤ ティ ベス メー ルト ウタイ ポ ミー ルイ ナース

This system contains the fourth line of the musical score. It continues the melody and bass line from the third system. The lyrics are written below the staff.

[主日ポロキメン]

ポロキメン (歌詞 祈禱書とあり修正)

(一調)

主や、我ら爾を たのむが ごとく 爾の 憐れみを われら に 垂—れたまえ

(二調)

1. 2. 3.
主はわが力、わが^{うた}歌なり、かれはわがすくいとなれり

(三調)

1. 2. 3.
わが^{うた}神に歌い、うたえよ、わが^{うた}主をうたいうたえよ

(四調)

1. 2. 3.
主や^{なんじ}爾のしあはれは何んぞ大 き みなちえをもってつくれり

(五調)

1. 2. 3.

主やなんじ 我らを保ち我等を護に この世よりいかにいたらん

(六調)

1. 2. 3.

主やなんじの民を救い なんじの業に福をくだしたまえ

(七調)

1. 2. 3.

主はその民に力をたまひ 主はもろくに平安のふくをたまわん

8調

主 我が神に誓いをなして つぐなえよ

[使徒経の読み]

輔祭 睿智

誦経 聖使徒パウエルが〇〇人/〇〇の教会に達する書/聖使徒〇〇の公書の読み、

輔祭 謹みて聴くべし、

誦経 (使徒経を読む)

【福音前のアリルイヤ】

司祭 爾に平安

誦経 爾の神にも、アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、

(詠) アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、 3回繰り返す

1 調

1 調 アリルイヤ アリルイヤ ア - - リルイヤ

2 調

2 調 アリルイヤ アリルイヤ ア - - リルイヤ

3 調

3 調 アリルイヤ アリルイヤ アリル - イヤ

4 調

4 調 アリルイヤ アリルイヤ ア - - リル - イヤ

5 調

5 調 アリルイヤ アリルイヤ アリル - イヤ

6調

6調 アリル イヤ

7調

7調 アリル イヤ

8調

8調 アリル イヤ

[福音經の読み]

輔祭 君や、聖使徒及び福音者(イオアン)の福音を宣ぶる者に祝福せよ、
 司祭 願くは神、光栄にして讃美たる聖使徒及び福音者(イオアン)の祈祷によって、爾福音を宣ぶる者に多くの力ある言を賜はん、その至愛の子我が主イイス・ハリストスの福音の行るるが為なり。
 輔祭 アミン、睿智、謹み立て、聖福音經を聴くべし
 司祭 衆人に平安
 (詠) 爾の神にも

輔祭 (イオアン)による聖福音經の読み

[説教]

〔重連祷〕

輔祭 我等皆霊を全うして曰はん、我等の思いを全うして曰はん、
 輔祭 主全能者、吾が列祖の神や、爾に祷る聆き納れて憐めよ、
 輔祭 神や爾の大なる憐れみに因りて我等を憐めよ、爾に祷る聆き納れて憐めよ、
 輔祭 我が國の天皇及び國を司るものの為に主に祷らん、
 輔祭 又教會を司る尊貴なる我等の東京の大主教全日本の府主教ダニイル及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の為に祷る、
 輔祭 又我等の兄弟、諸司祭、諸修道司祭、及びハリストスに於ける我等の衆兄弟の為に祷る、
 輔祭 又恒に記憶せらるる福たるこの聖堂の建立者、及び已に寐りし悉くの父祖兄弟、此の處と諸方とに葬られたる正教の者の為に祷る、
 輔祭 又此の至尊なる聖堂に者を献り、善業を行ひ、之に勞し、之に歌ひ、及び此に立ちて爾の大いにして豊なる憐を仰ぎ望む者の為に祷る、
 司祭 蓋、爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何も世世に、

(詠) 主憐めよ

(詠) 主憐めよ

(詠) 主憐めよ (3回)

(詠) アミン



〔死者の連禱〕（必要に応じて）

輔祭 神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に禱る、聆き納れて憐めよ、（詠）主憐めよ 三次

輔祭 又寝りし神の諸僕（某）の^{たましい}霊の安息のため、及び彼等に凡そ自由と自由ならざる罪の赦されんがために禱る、（詠）主憐めよ 三次

輔祭 主神が彼等の^{たましい}霊を諸義人の安息する所に入れ給わんことを禱る （詠）主憐めよ 三次

輔祭 彼等に神の憐れみと天国と諸罪の赦とを賜わんことをハリストス我が死せざる王及び神に願う、（詠）主賜えよ

輔祭 主に禱らん、（詠）主憐めよ

司祭 （高声）蓋ハリストス我等の神や、爾は寝りし爾の諸僕某の復活と生命^{いのち}と安息なり、我等光榮を爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神^{しん}とに献ず、今も何時も世世に、（詠）「アミン」



〔啓蒙者の連禱〕

輔祭 啓蒙者や、主に祈るべし、（詠）主憐めよ

輔祭 信者や、啓蒙者の為に禱らん、願くは主は彼等に憐を垂れん、

輔祭 眞實の言を以て彼等を啓蒙せん、

輔祭 義の福音經を彼等に啓かん、

輔祭 彼等をその聖公使徒の教會に一にせん、

輔祭 神や、爾の恩寵を以て、彼等を救ひ憐み佑け護れよ、

輔祭 啓蒙者や、爾等の首を主に屈めよ、（詠）主爾に

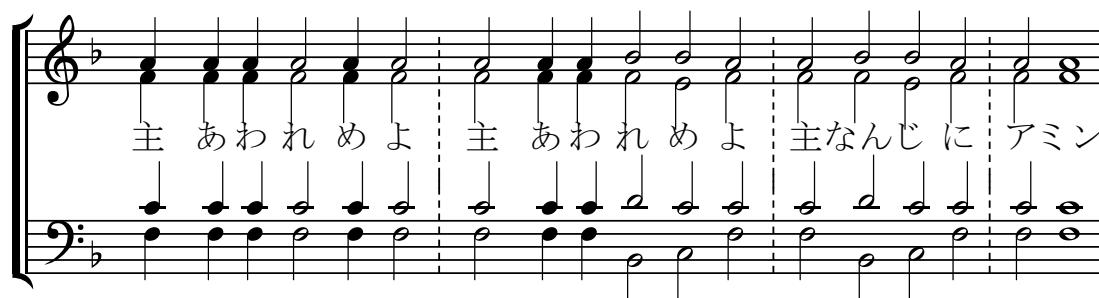
司祭 願くは彼等も我等と偕に、爾父と子と聖神の至尊至榮の名を讃揚せん、今も何時も世世に、（詠）アミン

輔祭 衆啓蒙者出でよ、啓蒙者出でよ、衆啓蒙者出でよ、啓蒙者一人もなく、唯信者またまた安和にして主に禱らん、（詠）主憐めよ

輔祭 神や、爾の恩寵を以て、我等を佑け救ひ憐み護れよ、（詠）主憐めよ

輔祭 睿智

司祭 蓋、凡そ光榮尊貴伏拜は爾父と子と聖神に歸す、今もいつも世世に、 (詠) アミン



[信者の連祷]

輔祭 我等復又安和にして主に祈らん、

(詠) 主憐めよ

輔祭 上より降る安和と我等が霊の救の為に主に祷らん、

(詠) 主憐めよ

輔祭 全世界の安和、神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の為に主に祷らん、

輔祭 此の聖堂、及び信と慎と神を畏るる心とを以て此に来たる者の為に主に祷らん、

輔祭 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが為に主に祷らん

輔祭 神や、爾の恩寵を以て我等を助け救い憐み護れよ、

輔祭 叡智

司祭 我等常に爾が権柄の下に護られて、光榮を爾父と子と聖神に献ずるが為なり、今も何時も世世に、

(詠) アミン。アミン



[大聖入]ヘルビムの歌

選択 1

17 ヘルヴィムの歌 (1)

ポルトニアンスキー 作曲 5 番

わ れ 等 つ つ し ん で ヘ ル ヴィ ム に の つ と り

ヘ ル ヴィ ム に の つ と り せ い 三 の う た を

い の ち を ほ ど こ す の せ い 三 者 に

た て ま つ り て こ の 世 の つ と め を

し り ぞ く べ し し り ぞ く べ し



ア ミン か み の なみい るつか い は



見 え ずしてにな いたてまつ る



万 ぶ つのつかさ を お いいただ け ば な り



ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ



ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ

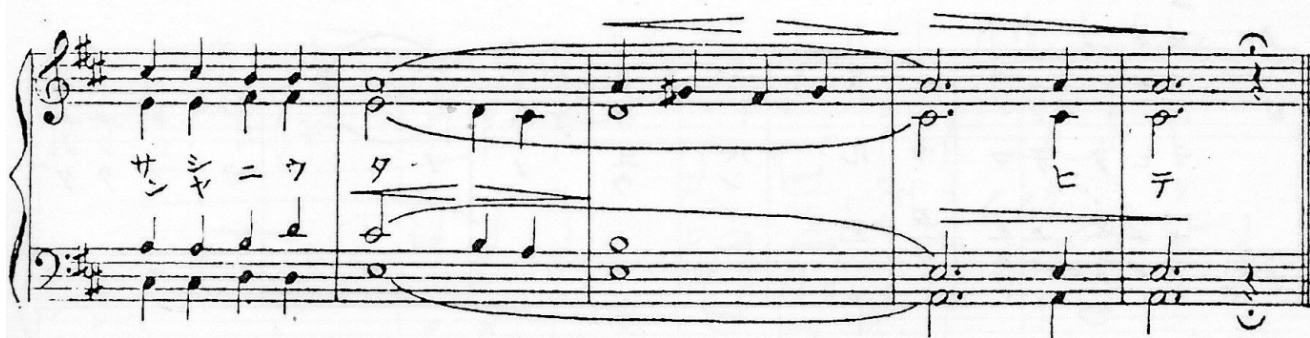
選択 2

ヘルウィムノ歌(第七)「ツアルスカヤ」

ボルトニャンスキイ作曲

[illegible][illegible]

A handwritten musical score for the song "The Rose Tree". The score is written on two staves, treble and bass clef, with a key signature of one sharp (F#). The melody is written in the treble clef, and the accompaniment is in the bass clef. The piece is in 4/4 time. The melody begins with a quarter note G4, followed by a quarter note A4, a quarter note B4, and a quarter note C5. The accompaniment begins with a quarter note G2, followed by a quarter note A2, a quarter note B2, and a quarter note C3. The piece is marked with a "V" at the beginning and a "P" (piano) dynamic marking. The melody is written in a simple, folk-like style, and the accompaniment is a simple bass line. The piece ends with a final chord of G2, A2, B2, and C3.



ディスクスを持って

- 司祭 願くは主神はその国に於いて、我が国の天皇及び国を司るものを常に記憶せん、今も何時も世世に、
- 司祭 願くは主神はその国に於いて教会を司る我等の尊貴なる _____ 主教、_____ を常に記憶せん、今も何時も世世に、
- 司祭 願くは、主神はその国において常に記憶せらるる(某)記憶せん、今も何時も世世に、
- 司祭 願くは主神はその国において爾衆正教のハリスティアニン等を常に記憶せん、今も何時も世世に、

(詠) アミン

1 主敬ハキノミ 2

ア ミン ア ミン シ シノグ ノミ ヘズシテニ

ナヒタ テマ ツル バン ユウ ノ ヲウ ヲ イ タダ

カン ト スルニ ヨ ル ア リ ル イ ヤ ア リ

ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ

選択 3

ヘルビムの歌

ストレッツカヤ

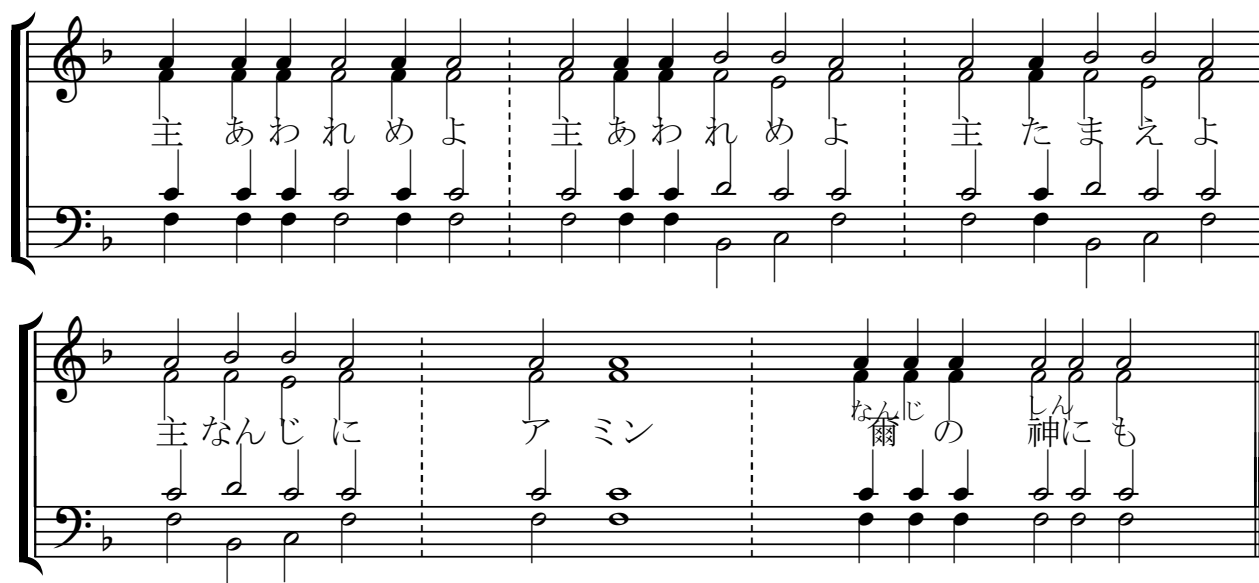


わ - - - - れら おお み - - - - つ - に
して ヘ - - - - ルビ - - - - ムを
かたどり ヘ - - - - ルビムを かたどり
せ - - - い 三 - - - の うた - - - -
- - を い - - の ちを ほどこす 三 者に
うたいて 三 者に うたいて
い - - - - ま この 世 - - の おもんば
かりを こと - - ごとか しりぞくべし
しりぞくべし アミン
神 - 使の 軍 は 見え ずして



[増連祷]

輔祭	我等主の前に我が祈りを増し加へん、	(詠)	主憐めよ
輔祭	献げたる尊き祭品の為に主に祈らん、	(詠)	主憐めよ
輔祭	子の聖堂及び信と慎みと神を畏るる心とを以て此に来たるものの為に主に祈らん、		
輔祭	我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが為に主に祷らん、		
輔祭	神や、爾の恩寵を以て我等を助け救ひ憐み護れよ、		
輔祭	此の日の純全、成聖、平安、無罪ならんことを主に求む、	(詠)	主賜へよ
輔祭	平安の神使、正しき教導師、吾が霊体の守護者を賜はんことを主に求む、	(詠)	主賜へよ
輔祭	我等の罪と過とを宥め赦さんことを主に求む、		
輔祭	我等の霊に善にして益ある事、及び世界に平安を賜はんことを主に求む、		
輔祭	我等の生命の余日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む、		
輔祭	我等の生命の終が「ハリストシアニシ」に適ひ、疾なく、耻なく、平安なること、及びハリストスの畏る可き 審判に於て宜しき對をなすを賜はんことを求む、		
輔祭	至聖、至潔にして、至りて讃美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと諸聖人とを記憶して、 我等己の身及び互いに各の身を以て並に悉くの我等の生命を以てハリストス神に委託せん、	(詠)	主爾に、
司祭	爾の独生子慈憐に因りてなり、爾は彼と至聖至善にして生命を施す爾の神 ^o と偕に崇め讃めらる、今も 何時も世世に、	(詠)	アミン
輔祭	衆人に平安	(詠)	爾の神 ^o にも



〔安和の接吻〕

輔祭 我等、互に相愛すべし、同心にして承け認めんが為なり、



〔信 経〕

輔祭 門、門、敬みて聴くべし、

全員 我信ず、一の神・父^{かみ ちち} 全能者、天と地、見ゆると見えざる萬物^{ばんぶつ}を造りし主を。

又信ず、一の主イイスス・ハリストス 神^{どくせい}の獨生の子、萬世^{よろずよ}の前に父より生れ、光よりの光、真^{まこと}の神よりの真^{まこと}の神、生れし者にて造られしに非ず、

父と一体にして萬物^{ばんぶつ}彼に造られ、我等人人の為、又我等の救いのために天より降り^{くだ}、聖神^{せいしん}及び童貞女マリヤより身を取り人となり、我等のために、ポンティ・ピラトの時 十字架^{くぎ}に釘うたれ、苦しみを受け葬^{ほう}むられ、第三日に聖書にかないて復活し、天に^{のぼ}り、父の右に^ざ坐し、光栄を^{あらわ}顯して生ける者と死せし者とを 審判するためにまた来り、その国終りなからんを。

又信ず、聖神^{せいしん}・主^{いのち}・生命を施す者、父より出で、父及び子と共に^ほ捧められ、預言者^{よげんしゃ}を以て^{もつ}かつて言いしを。

又信ず、一の聖なる公^{おおやけ}なる使徒の教会を。

我認む、一の洗礼を^{もつ}以て罪^{ゆる}の赦しを得るを。

我望む、死者の復活、並に^{らいせ}来世^{いのち}の生命を、「アミン」。

選択 1 平和の憐れみ(親しみの捧げもの) Mark BAILEY

輔祭 正しく立ち畏れて立ち、敬みて安和にして聖なる献物を奉らん、

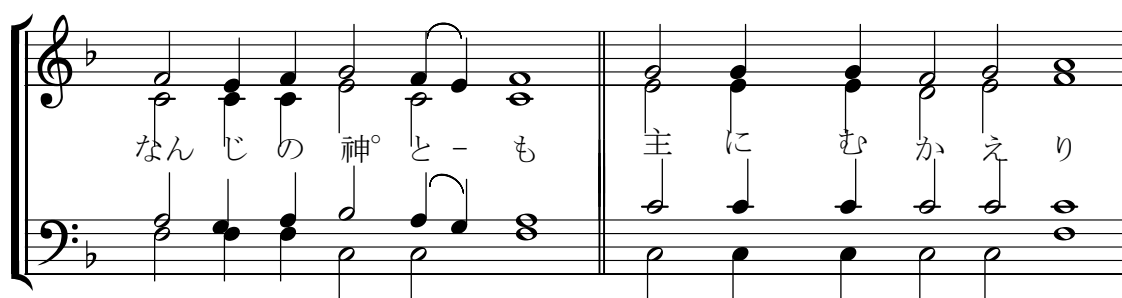


司祭 願くは我が主イエス・ハリストスの恩、神父の慈^{かみちち}み聖神の親みは、爾衆人と偕に在らんことを

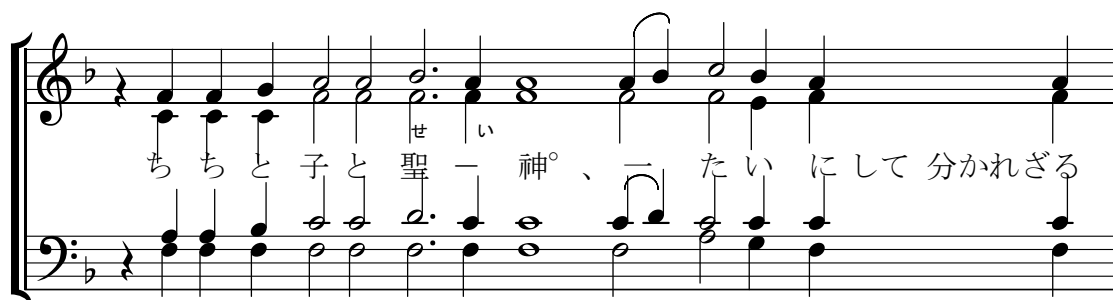
(詠) 爾の神にも

司祭 心上に向ふべし、

(詠) 主に向かへり、



司祭 主に感謝すべし



司祭 凱歌を歌ひ、よび叫びて曰く、

せーい せーい 聖なるかな 主サワ オフ

なんじの光えいは 天地に あまねし

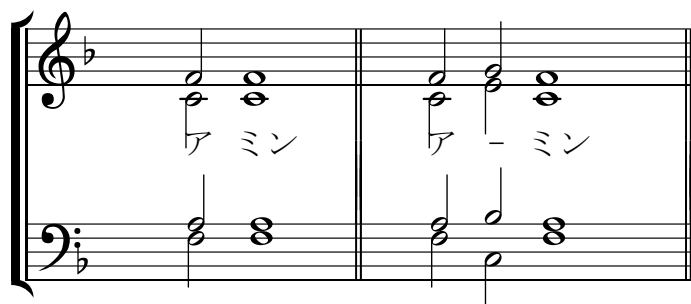
至とたかきに オサンナ 主の名によって

来たるものは あがめ讃めらる

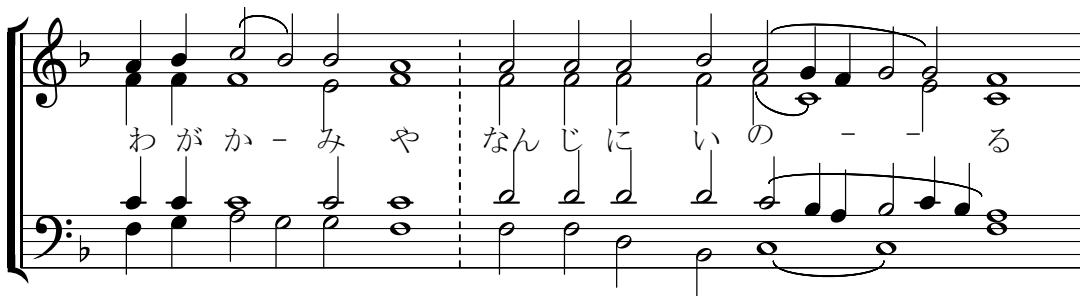
至とたかきに オサンナ

司祭 取りて食へ、是我が体、爾等の為に擘かるる者、罪の赦を得るを致す。(詠) アミン

司祭 皆之を飲め、之我の新約の血、爾等及び衆くの人々の為に流さるる者、罪の赦しを得るを致す、
(詠) アミン



司祭 爾の賜を、爾の諸僕より、衆の為一切の為に爾に献りて、



➡P41 「常に福」へ

選択 2 平和の憐れみ(親しみの捧げもの) 1 番

平和と 憐れみ、讃揚の まつりを なんじのしんにも

The first system of the musical score consists of two staves. The upper staff is in treble clef and the lower staff is in bass clef. The melody is written in a simple, hymn-like style with quarter and eighth notes. The lyrics are written below the notes.

主にむかえり ちちと子とせいしん 一体にして

The second system continues the melody from the first system. It also consists of two staves (treble and bass clef) with the same notation style. The lyrics are written below the notes.

わかれざる聖三者は どうともおがまるべし

The third system continues the melody. It consists of two staves (treble and bass clef) with the same notation style. The lyrics are written below the notes.

せいせいせいなるまサワオフ 天地に汝の光 えいは

The fourth system is the final one on this page. It consists of two staves (treble and bass clef) with the same notation style. The lyrics are written below the notes.

あまね し いとたかきにオサンナ 主の名にて来たるもの

は あが め ほ め ら る いとたかきにオサンナ

アミン ア ミン 主や汝をあがめうたいなんじを

ほめあげなんじに感謝しわがかみやなん

にいのるなんじにいのる

司祭 特に至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰、生神女・永貞童女マリヤの為、

No. 2 常に福い

ホルトニャンスキー作曲
デ・リヴォフスキー 訳

つねにさいわいにして まったくきずなき

The first system of the musical score, featuring a treble and bass staff with a key signature of one flat. The melody is in the treble staff, and the accompaniment is in the bass staff. The lyrics are written below the treble staff.

生神女わがかみのははなるなんじと

The second system of the musical score, continuing the melody and accompaniment. The lyrics are written below the treble staff.

さいわいなりととのうるはまことにあたれり

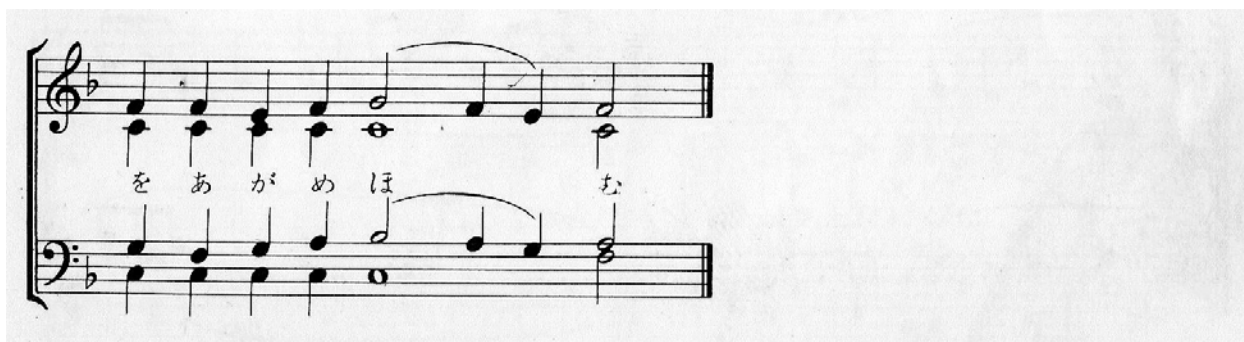
The third system of the musical score, continuing the melody and accompaniment. The lyrics are written below the treble staff.

ヘルビムよりどうとくセラヒムにならびなくさかえ

The fourth system of the musical score, continuing the melody and accompaniment. The lyrics are written below the treble staff.

みさおをやぶらずして かみことばを生みし

The fifth system of the musical score, concluding the piece. The lyrics are written below the treble staff.



司祭 主や尊貴なる我等の(府主教、大主教、主教)()を記憶し、彼(等)を平安、無難、尊貴、壮健、長寿なる者、及び爾が真実の言を正しく伝えるものとして、爾の聖なる教会に与え給へ、

(詠) 万民をも (主教祈祷のときは2回)

司祭 並びに我等に口を一にし心を一にして、爾父と子と聖神の至尊至厳の名を讃栄讃頌するを賜へ、今も何時世世に、

(詠) アミン

司祭 願くは大なる神、我が救主イイスス・ハリストスの憐みは、爾衆人と偕に在らんことを

(詠) 爾の神にも



[増連禱]

輔祭 我等諸聖人を記憶して復又安和にして主に祈らん (詠) 主憐めよ
 輔祭 已に献ぜられ及び聖にせられし尊き祭品の為に主に禱らん、
 輔祭 人を愛する我が神が、之を其の聖なる天上の無形の祭壇に置き、屬神の馨香として享け、我等に報いて、神妙の恩寵と聖神^o の賜とを降すが為に禱らん、
 輔祭 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが為に主に禱らん、
 輔祭 神や、爾の恩寵を以て我等を助け救ひ憐み護れよ、
 輔祭 此の日の純全、成聖、平安、無罪ならんことを主に求む、 (詠) 主賜へよ
 輔祭 平安の神使、正しき教導師、吾が靈体の守護者を賜はんことを主に求む、
 輔祭 我等の罪と過とを宥め赦さんことを主に求む、
 輔祭 我等の靈に善にして益ある事、及び世界に平安を賜はんことを主に求む、
 輔祭 我等の生命の余日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む、
 輔祭 我等の生命の終が「ハリストシアニン」に適ひ、疾なく、耻なく、平安なること、及びハリストスの畏る可き審判に於て宜しき對をなすを賜はんことを求む、
 輔祭 信の同一と聖神の体合とを求めて、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、 (詠) 主爾に
 司祭 主宰や、我等に、勇を以て、罪を獲ずして、敢て爾天の神・父をよびて言ふを賜へ、



[天主經] 全員で歌う、単音 そのあと各国語で唱えてもらう

全員 天に在す我等の父や、願わくは爾^{なんじ}の名は聖とせられ、爾^{なんじ}の国は来たり、
爾^{なんじ}の旨^{むね}は天に行わるるが如く^{ごと}地にも行われん、我が日用^{かて}の糧を 今日我
等に与え給え、我等^{おいめ}に 債ある者を我等^{ゆる}免すが如く、我等^{おいめ}の 債^{ゆる}を免し給
え、我等^{いざない}を 誘に導かず、なお我等を凶悪より救い給え、

[ギリシア語]

Πάτερ ἡμῶν, ὁ ἐν τοῖς οὐρανοῖς· ἀγιασθήτω τὸ ὄνομά σου· ἐλθέτω ἡ βασιλεία σου·
γενηθήτω τὸ θέλημά σου, ὡς ἐν οὐρανῷ καὶ ἐπὶ τῆς γῆς. Τὸν ἄρτον ἡμῶν τὸν ἐπιούσιον
δὸς ἡμῖν σήμερον· καὶ ἄφες ἡμῖν τὰ ὀφειλήματα ἡμῶν, ὡς καὶ ἡμεῖς ἀφίεμεν τοῖς
ὀφειλέταις ἡμῶν· καὶ μὴ εἰσενέγκῃς ἡμᾶς εἰς πειρασμόν, ἀλλὰ ῥῦσαι ἡμᾶς ἀπὸ τοῦ
πονηροῦ.

[スラブ語]

Отче наш, Иже еси на небесех! Да святится имя Твое, да приидет Царствие Твое, да
будет воля Твоя, яко на небеси и на земли. Хлеб наш насущный даждь нам днесь, и
остави нам долги наша, якоже и мы оставляем должником нашим, и не введи нас во
искушение, но избави нас от лукаваго.

[ルーマニア語]

Tatăl nostru, Care ești în ceruri, sfințească-se numele Tău, vie împărăția Ta, făcă-se voia
Ta, precum în cer așa și pe pământ; pâinea noastră cea spre ființă dă-ne-o nouă astăzi, și
ne iartă nouă greșelile noastre, precum și noi iertăm greșiților noștri, și nu ne duce pe noi
în ispită, ci ne izbăvește de cel rău.

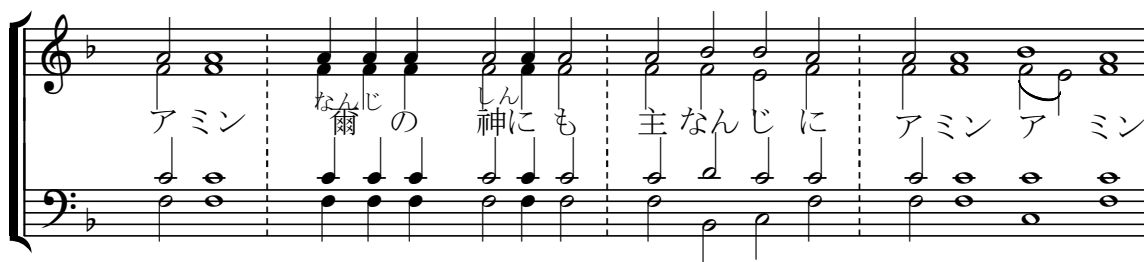
その他(グルジア語など)

[英語]

Our Father, who art in the Heaven, hallowed be Thy name, Thy Kingdom come, Thy
will be done on earth as it is in heaven, Give us this day our daily bread, and forgive
us our debts, as we forgive our debtors; and lead us not into temptation, but deliver
us from the evil one.

司祭 蓋国と権能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、(詠) アミン
司祭 衆人に平安 (詠) 爾の神にも
輔祭 爾等の首を主に屈めよ、(詠) 主爾に、
司祭 爾が独生子の恩寵と慈憐と仁愛とに因りてなり、爾は彼と至聖至善にして生命を施す爾の神と偕に
讃揚せらる今も何時も世世に、

(詠) アミン



輔祭 謹みて聴くべし

司祭 聖なる物は聖なる人に

聖なるは ただひとり、主なるは ただ ひ と り

かみ ちち こうえいあらわ
神・父の 光栄を顕す イイスス・ハリストス なり アミン

[領聖詞][日曜日の領聖詞 148 聖詠 1]

天より 主を 讃め 揚げよ、いと たかきに

かれを 讃め 揚げよ。ア リー ル イ ヤ、

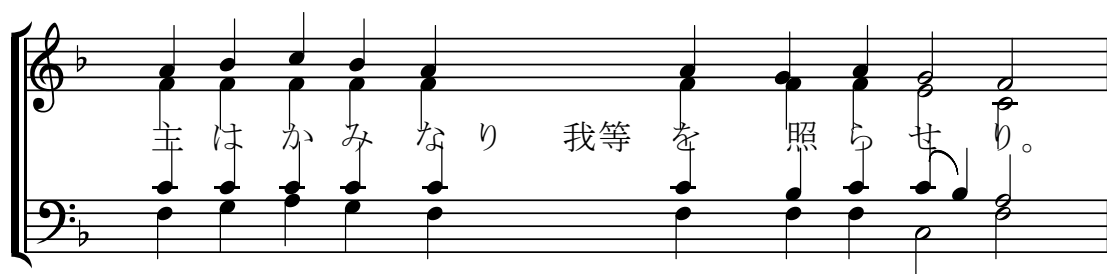
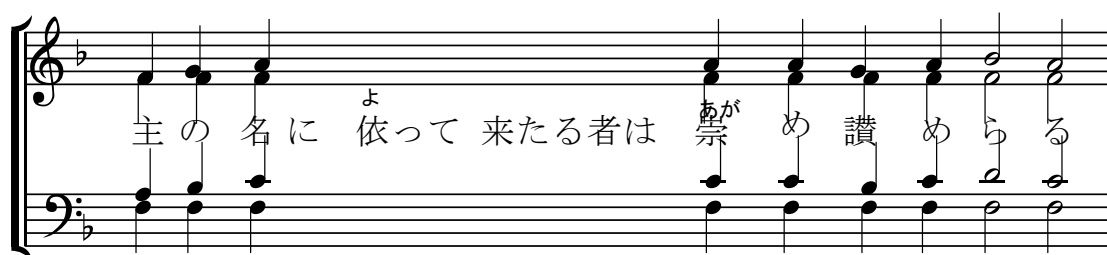
ア リー ル イ ヤ、ア リー ル イ ヤ

輔祭 神を畏るる心と信とを以て近づき来たれ、

選択 1



選択 2



〔領聖祝文〕

主や、我信じ且承け認めて、爾を実にハリストス生活の神の子、罪人を救うが為に世に来たりし者となす、衆罪人のうち我第一なり、また信ず、此は乃ち爾が至浄の体、此は乃ち爾が至尊の血なりと、故に爾に祈る、我を憐み、我が自由と自由ならずして、言と行いにて、知ると知らずして、犯しし諸罪を赦し給へ、並びに我に定罪なく、爾が至上なる機密を領けて、罪の赦しと永生を得るを致させ給へ、「アミン」

神の子や、今我を爾が機密の筵に與る者として容れ給へ、蓋我爾の仇に機密を告げざらん、又、爾にイウダの如き接吻を為さざらん、乃ち右盜の如く爾を承け認めて曰ふ、主や爾の国に於いて我を記憶せよ、と。

主や祈る爾の聖なる機密を領くるは、我が為に審案或いは定罪とならず、乃ち霊体の醫しとならんことを。アミン

[領聖]

Nina H. 編曲

ハリスのせいたいを領け 不死のいずみを飲めよ

アリル イヤ アリル イヤ アリル イヤ

司祭 神や、爾の民を救ひ、及び爾の嗣業に福を降せ、

すで まこと
既に 真の ひかりを見 天の 聖 神を 受け

正しき *教えを得て わかれざる 聖三者をおがむ

*信

彼 我等を 救いたまえば なり

司祭 今も何時も世世に、



輔祭 謹みて立て、神聖、至浄、不死にして生命を施す天上の畏るべきハリストスの聖機密を領けて、宜しく主に感謝すべし、

輔祭 神や、爾の恩寵を以て我等を助け救ひ憐み護れよ、 (詠) 主憐めよ、主憐めよ

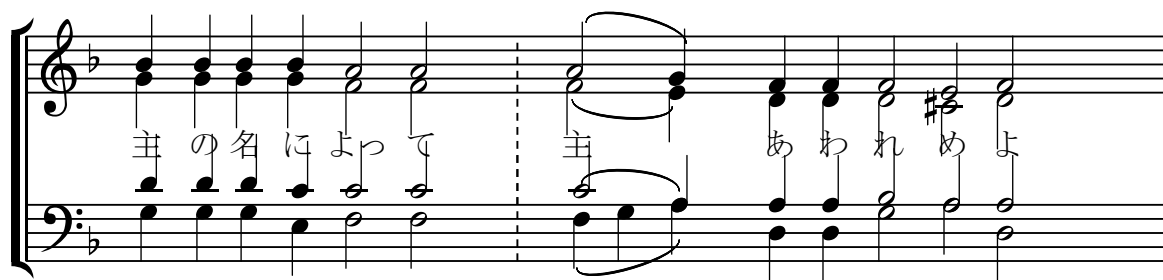
輔祭 此の日の純全、成聖、平安、無罪ならんことを求めて、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、 (詠) 主爾に

司祭 蓋爾は我等の成聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神^o に献ず、今も何時も世世に、(詠) アミン



司祭 平安にして出づべし、
 輔祭 主に祷らん、

(詠) 主の名に因りて
 (詠) 主憐めよ

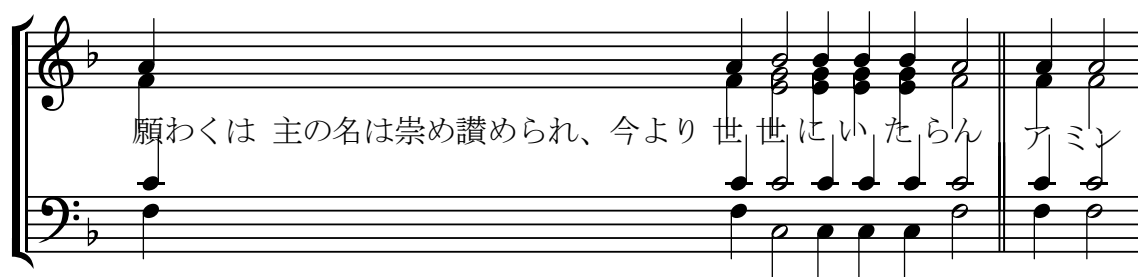
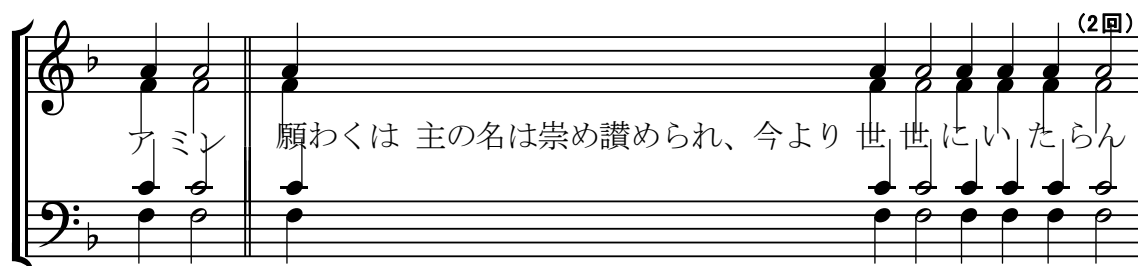


司祭 【升壇外の祝文】

爾を讃揚する者に福を降し、及び爾を待む者を聖にする主や、爾の民を救ひ、及び爾の嗣業に福を降し、爾が教会の充満を守り、爾が堂の美なるを愛する者を聖にせよ、爾が神聖の力を以て彼等を光榮し、及び我等爾を待む者を遣すなかれ、爾の世界と爾の諸教会と諸司祭と、我国の天皇及び国を司る者、及び爾の衆人為に平安を賜へ、蓋凡その善なる施し、凡その全備なる賜は、上より爾光明の父より降るなり、我等光榮感謝伏拝を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、

司祭 願くは主の降福は、その恩寵と仁愛とに因りて常に爾等に在らん、今も何時も世世に、

(詠)「アミン」



司祭 ハリストス神我等の恃みや、光榮は爾に帰す、光榮は爾に帰す、

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も 世 世 に ア ミ ン

主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ 福をく だ せ ア ミ ン

司祭〔発放詞〕 死より復活せしハリストス我等の眞の神は、その至浄なる母、光栄にして讃美たる聖使徒、我等の聖神父コンスタンティノポリの大主教金ロイオアン、(当日の聖人)及び諸聖人の祈祷に因りて我等を憐み救はん、彼は善にして人を愛する主なればなり、

(詠) アミン

〔萬寿詞〕

ア ミ ン か み や 我が国の 天 皇 及び国を 司 ど る も の

我等の府主教ダニイル、及び 主教セラ フィム 及び悉くの正教の

ハリスティアニン 等 を いくとせにも ま も り た ま え

ワシリーの聖体礼儀、大斎中の日曜日、聖大木曜日、聖大土曜日、その他

輔祭：正しく立ち畏れて立ち ...

司、願わくは...

へいわと あわれみ 讃 揚 の まつ り を なんじの

司、心、主に伺ふべし 司、主に感謝すべし
神に も 主にむかえり ち ちと子 と せいしん

ちと子 と せ いしん い た い に し て

わ かれが る せい三者はとう とみおか

まる べし とう と み おが まる べし

司、凱歌を歌い、呼び叫びて言う、

せ いせ い せいなる主 せいなる

主 サ ワオヤ 天地になん じの

光 えいはあまねしいとたかきにオサナ い

とたかきにオサナ 主の名にて来た る

ものは主の名にて来た る も のは

あ か め あ か め ほ め ら る

いとたかきにオサナ い とたかきにオサナ

司. 取りてくらえ... 致す. 司. 皆. これをのみ... 致す.

ア ミン ア ミン

司. なんじの賜を... なんじに献りて

主 や なんじを あか め う たい 主 や なんじ

を あか め う た い なんじを ほ め あ げ

司祭 殊に至聖至潔にして... (常に福の代わり)



恩寵をみちこ むるものや 神の使いのむれと



ひとのやからはみな なんじをよろこぶ なんじは



せい せられし 殿 ちえな る 天堂



童てい女の ほまれ なり 世のなきさき



よりわがかみなるもの なんじより身 をうけ

みどりごとなれり 汝のふところを宝

座となし なんじのはらを天より

ひろ きものとなせり 思寵をみち

こむるものや 万ぶつなんじを

よろこぶ 光えいはなんじのものなり

選択 1 いくとせも

日本語+スラブ語

First system of the musical score. It consists of a treble and bass staff. The treble staff has a key signature of one sharp (F#) and a common time signature (C). The melody is written in a simple, folk-like style. The lyrics 'いくとせも' are written below the treble staff. The bass staff provides a harmonic accompaniment with chords and single notes.

Second system of the musical score. It continues the melody and accompaniment from the first system. The lyrics 'いくとせも' are repeated. The musical notation includes various note values and rests, with some notes beamed together.

Third system of the musical score. It concludes the piece. The lyrics 'いくとせも' are repeated. The final measure features a double bar line and a repeat sign. The musical notation includes various note values and rests, with some notes beamed together.

ム、ガ ヤ レ タ

カスタルスキー

Handwritten musical score for the first system. It consists of three staves. The top staff is a vocal line in treble clef with a 3/4 time signature. The lyrics below it are "ム、ガ ヤ レ タ ム、ガ ヤ レ — タ". The middle staff is another vocal line in treble clef with a 3/4 time signature. The lyrics below it are "ム、ガ ヤ レ タ ム、ガ ヤ レ — タ". The bottom staff is a piano accompaniment line in bass clef with a 3/4 time signature.

Handwritten musical score for the second system. It consists of three staves. The top staff is a vocal line in treble clef with a 3/4 time signature. The lyrics below it are "ム、 — — — ガ ヤ ム、ガ ヤ レ — — — タ". The middle staff is another vocal line in treble clef with a 3/4 time signature. The lyrics below it are "ム、 — — — ガ ヤ ム、ガ ヤ レ — — — タ". The bottom staff is a piano accompaniment line in bass clef with a 3/4 time signature.

Handwritten musical score for a song in 3/4 time. The score is written on four systems of staves, each with a treble and bass staff. The lyrics are in Japanese and are written below the vocal line.

System 1:

Treble staff: ム, がや ム, がや レタ レタ

Bass staff: ム, がや レタ レタ

System 2:

Treble staff: ム, がや レタ ム, レタ レタ ム,

Bass staff: ム, がや レタ

System 3:

Treble staff: がや レ. タ ム, がや レタ ム, がや レタ ム, がや

Bass staff: ム, がや レタ

System 4:

Treble staff: ム, がや レ. タ

Bass staff: がや ム, ...

Multi Ani Traiasca

Romanian

multi ani trai- as- ca multi ani trai- as- ca

multi ani trai- as- ca in tru multi ani

La multi ani cu sa- na ta- te

sa va dea dom- nul tot ce do ri ti

zi le se ni- ne si fe- ri- ci- te

La - multi ani sa trai ti

Va fi e Via- ta nu- mai lu- mi- na

ca in lu- mi- na sa dai nu i ti

pent ru cre- din- ta si fe- ri- ci- re

La - multi ani sa trai ti

選択3 いくとせも

日本語+スラブ語+ルーマニア語

